

クロマグロ 太平洋

Pacific Bluefin Tuna, *Thunnus orientalis*



管理・関係機関

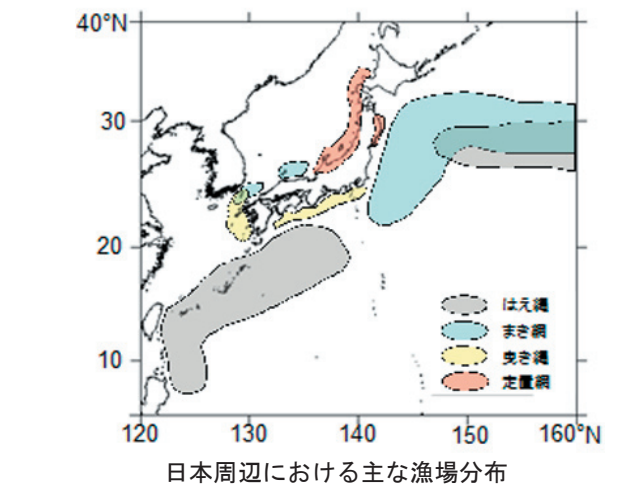
中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)、北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会 (ISC)、全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

最近一年間の動き

2007 年の総漁獲量 (暫定値) は 1.8 万トンで、2002 から 2006 年の平均漁獲量 2.3 万トンの約 7 割に留まった。特に 2007 年の東部太平洋のまき網による漁獲が 2006 年の半分以下の約 0.4 万トンに減少した。資源評価は 2008 年 5 月の ISC クロマグロ作業部会において更新され、2006 年の親魚資源量は、1952 から 2005 年に推定された親魚資源量の中間的なレベルにあるものの、現状以上の漁獲圧の増加は将来の資源水準の減少を引き起こす可能性が高いことが示された。この資源評価の結果を受けて、12 月に開催された WCPFC 年次会合では、各国が自主的に漁獲努力量を拡大させない措置をとることが合意された。

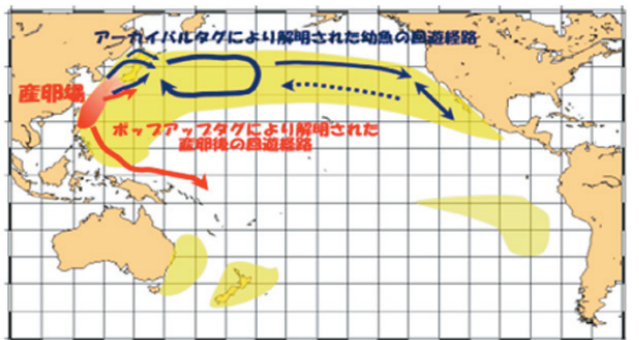
生物学的特性

- 寿命: 20 歳以上
- 成熟開始年齢: 3 歳
- 産卵期・産卵場: 日本南方～フィリピン沖で 4～7 月
日本海で 7～8 月
- 索餌場: 温帯域
- 食性: 魚類、甲殻類、頭足類、他
- 捕食者: まぐろ類、シャチ、さめ類

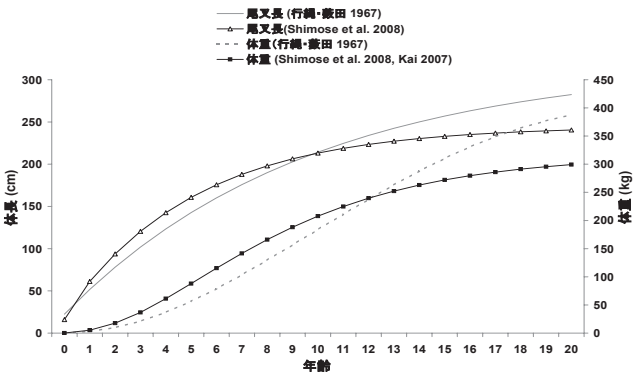


利用・用途

刺身・すしなど



太平洋クロマグロの体長・体重と年齢との関係

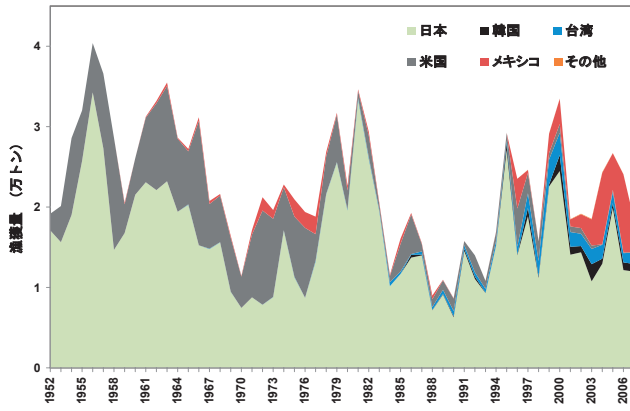


漁業の特徴

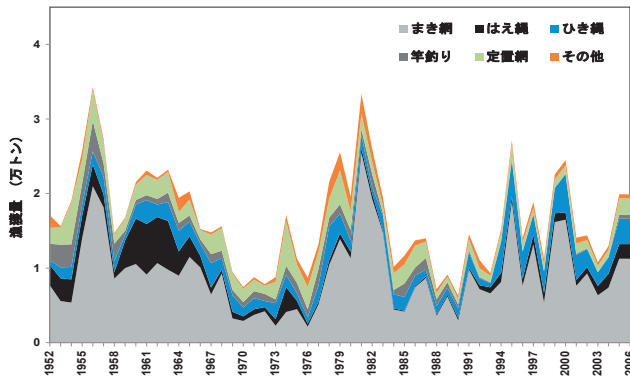
本種の漁獲の大半はまき網漁業によるものであるが、まき網以外の様々な漁法でも、台湾東方沖から日本周辺および三陸沖において漁獲が行われている。沿岸では、ひき縄や定置網漁業により周年にわたって主に未成魚が、沖合では、まき網漁業により夏季から秋季に未成魚や成魚が、春季の台湾東方沖から奄美諸島周辺域にかけては、はえ縄漁業により大型の成魚が漁獲されている。1990 年以降には東シナ海から日本海南西部においてまき網漁業による未成魚の漁獲が増えている。東部太平洋では 5～10 月に主にメキシコがまき網により漁獲しており、そのほとんどがメキシコでの蓄養原魚となっている。日本では 0 歳魚を用いた蓄養 (養殖) が行われている。

漁業資源の動向

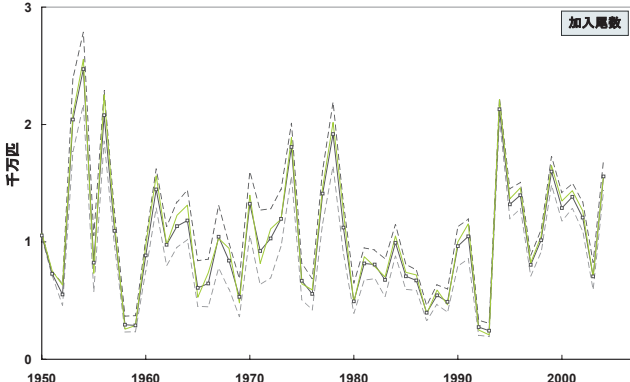
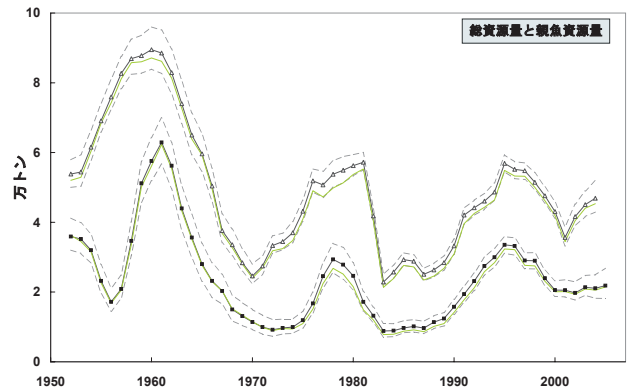
年間総漁獲量は 9 千～4 万トンの間を周期的に変動している。近年では 1981 年に 3 万 5 千トン記録した後、1988 年に 9 千トンまで落ち込んだ。1990 年代以降は 2 万トン前後で安定している。2003～2007 年の漁獲量は、西部太平洋で 1 万 4 千～2 万 2 千トン、東部太平洋で 4～10 千トンと推定されている。



日本の漁法別漁獲量の推移 (1952-2007)



国別漁獲量の推移 (1952-2007)



2008 年の資源評価で推定された太平洋クロマグロの総資源量 (白抜き三角)と産卵親魚量 (黒の四角)(上図)、および加入量 (白抜き四角、下図)の推定値の中央値

資源状態

2008 年 5 月の ISC クロマグロ作業部会において資源評価が行われ、2006 年の親魚資源量は、1952 から 2005 年に推定された親魚資源量の中間的なレベルにあることが推定された。しかし、現行の漁獲強度は、資源が安定して存続していくための限界となる漁獲圧に非常に近いレベルにあることが同時に示された。

管理方針

以上の資源評価の結果を受けて、2008 年 7 月の ISC 本会議は、太平洋クロマグロに対する漁獲死亡率をこれ以上増加させないことを最低限の予防措置とすべきことを 2008 年 9 月に開催された WCPFC 北委員会に勧告した (Anonymous 2007c)。同委員会は、これらの結果に基づいて、クロマグロの漁獲死亡率を現状以上に上げないことを当面の管理目標として、それを実現するために、漁獲努力量をこれ以上増大させないために必要な措置をとるという保存管理措置案をまとめた。この案は、2008 年 12 月に行われた WCPFC の本会議で議論されたが、来年の会合まで継続審議となった。ただし、各国が自主的に漁獲努力量を増大させない措置をとることが確認された。

資源評価まとめ

- 2008 年 5 月に ISC が資源評価を実施
- 評価手法には統合モデル (Stock Synthesis 2) が用いられた
- 現在の資源状態は、1952 から 2005 年に推定された資源量の中間的なレベル

資源管理方針まとめ

- 資源評価は ISC で 2008 年 5 月に実施された
- 評価手法は統合モデル (Stock Synthesis 2) を用いた
- 現状以上の漁獲圧の上昇は、将来の資源水準の低下をもたらすことが高い確率で推定された
- 一般的に用いられている MSY を達成するための目標管理基準値は、資源評価モデルで用いたパラメータの不確実性の影響を大きく受けるため、これらの管理基準値を用いた管理目標を提案することは本資源において困難であることが示された
- 2008 年 9 月の WCPFC 北委員会は、当面の管理目標として、現状以上に漁獲死亡率を上げないことを合意した
- 12 月に開催された WCPFC 年次会合では、各国が自主的に漁獲努力量を拡大させない措置をとることを合意した

クロマグロ (太平洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	約 18,000 ~ 27,000 トン 平均: 約 24,000 トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	約 11,000 ~ 20,000 トン 平均: 約 14,000 トン